成人において呼気一酸化窒素（FeNO）はアレルギー性気道炎症の良い疫学的指標となる

福島県立医科大学医学部呼吸器科　齋藤純平、佐藤俊、棟方充
環境情報科学センター　蓮沼英樹、石丸泰、鐘江宏
日本医科大学第四内科　工藤翔二

【目的】FeNOが成人におけるアレルギー性気道炎症の疫学的指標として有用か検討した。

【方法】成人280人にATS質問表に準じたアンケート調査、FeNO、呼吸機能検査、総IgE、特異的IgE（ダニ、スギ、ネコ、カビ）の測定を行った。FeNO測定はoffline法にて行った。そして、各指標の相関、反復喘鳴の有無と各指標の関係、喫煙／非喫煙群での反復喘鳴・アトピー（総IgE≧250　IU/ml又は特異的IgEスコア≧2）とFeNOの関係を検討した。最後にロジスティック回帰を用いて、アレルギー性気道炎症の指標としてFeNOが利用可能か検討した。

【結果】FeNOは総IgE、ダニRASTと正の相関を認め、FEV1%とは負の相関を認めた。反復喘鳴の有無と各指標の関係では、FeNO、総IgE、ダニRASTが反復喘鳴群で有意に高く、FEV1%は有意に低かった。（$p<0.001$）更に、喫煙／非喫煙群に分けて反復喘鳴・アトピーの有無でFeNO値を検討したところ、両群とも反復喘鳴群でFeNOは有意に高かった。最後に、ロジスティック回帰分析を行ったところ、FeNOは反復喘鳴を予測する指標として有用であった。（OR=24.9, C.I.=1.94-320）

【考察】以上より、成人においてFeNOは喫煙の有無に拘らず、アレルギー性気道炎症の疫学的指標として有用であると考えられた。